

---

# Twitter/ツイッター #1

結城陸空

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

Twitter/ツイッター #1

### 【コード】

N4465K

### 【作者名】

結城陸空

### 【あらすじ】

巻で話題のTwitter/ツイッター。でも使い方には要注意です。

What's Happening? (今、どうしてる?)

最近、ツイッターというものが流行っているらしい。ブログとチャットの中間的なもので、今の状況を140文字以内で簡潔につぶやき、それを眺めたり、コメントしたり出来る。

ボクも流行に沿うように、そんな簡単かつ便利なツイッターにハマリ、毎日なにかあればつぶやいている状況だ。そのツイッターには、人のつぶやきを見る機能もある。ボクは最近ある一人の人物のつぶやきに良く目を奪われる。

男か女かすら不明だが、ここではあえて”彼”と表現しようと思う。彼は、毎日規則正しく30分ごとにツイッターに投稿している。それは早朝であろうと深夜であろうと変わることはない。必ず、毎日、同じ時間に、つぶやいている。

内容はというと本当にどうでもいいことばかりだ。

その日食べたモノや、見て面白かったテレビ、身近で起こったちよつとしたことや、愚痴など……。他の人が投稿している内容と大差ないものだ。ただ一つ、彼の投稿で他の人と唯一違ったこと……。

それは、自身のことではなく、他の人に起こった内容だといふこと。

彼が見た他の人が食べたモノや、面白そうに見ているテレビ、自分の周りで他の人が経験したちよつとしたことや、他の人の愚痴な

ど。

彼は一体何を考えそうだった使い方をしているのかは知らないが、とにかく彼は他の人のことをつぶやく。それが彼のつぶやきに目を奪われる理由なのかも知れない。そしてボクはある日、彼のこんなつぶやきを見つけた。

” 今日、新しい人を見つけました ”

新しい人を見つけたという彼のつぶやき。ボクは内心ワクワクしていた。新しい人とはなんだろう……と。そしてその30分後、次の投稿があった。

” 今は、ツイッターを見ています。なにかに興味身心のようです ”

さらに30分後。

” 彼は、ひたすらにツイッターを見てます。見た目からしてパツとしないし、やる事ないんですかねえ？ ”

他人の愚痴が入り混じったつぶやき。いつものことだ。どうやら新しい人とは新しく観察できる人を見つけたということらしい。僕は携帯を置いて、ひとまずトイレに行き、用を足すと冷蔵庫を開け、ジュースを飲んで再び携帯を手取る。

” ようやく動きました。トイレに立ったようです。ついでにジュースも飲んでましたね ”

ボクはその投稿を見るや否や鳥肌が立った。そうそのつぶやきに書かれている行動は、まるで自分の行動とそっくり……。まさか、

見られているのはボク？

不気味だ。だがまだ確証はない。そこでボクは一つ試してみた。ボクは部屋で逆立ちを試してみたのだ。そして、ツイッターの投稿を待つ。

” なにやら突然部屋で、逆立ちをしましたよ。変な人ですね。”

この投稿によってボクの不安は現実のモノとなった。見られている。確実に、どこかの誰かに。ボクは部屋中のカーテンを閉め切った。そして、布団の中に包まった。

” 突然今度は、カーテンを全部閉めて布団に包まりましたよ。無駄なのに。”

ボクは、布団の中から出ると、辺りを見渡す。部屋の中に誰かがいるのだろうか、それとも外。どこから見られているのかまったく検討が付かない。ボクは部屋から出ると、金属バッドを持って外へ出る。外へ出たボクは通りを歩いてきた数人から、視線を集めた。

当然だ。血相を変えた表情で金属バッドを手に持ち、外に飛び出せば誰でも見てくる。

” 金属バッドを持って外へ飛び出して来ました。何をするんですよ  
うか？ 人でも殺すつもりなのでしょうか？”

やめる。ボクを見て観察するな。通りを歩いている人皆が携帯を手  
手にしている。全員が怪しい。全員に見られているような気がする。

” 気でも狂っているかのような形相で辺りを見回してますね。”

ボクはやめると叫んだ。誰だ分からないが、やめてくれ。ボクを観察するな。

”なにやら叫んでますね。怖いですね”

ボクは気が付いたら金属バットを振り回して、辺りの人間の頭部を破壊していた。辺りの人間を全て破壊したボクは、携帯電話を見る。

”ついに人を殺しましたよ”

その瞬間、パトカーのサイレンが鳴り響く。ツイッターを見た警察がすぐに駆けつけたのだ。ボクは見知らぬ相手に見られて、感情が高ぶってあまりの衝動に人をも殺してしまった。一体誰がボクを観察しているんだ。もうやめてくれ。その時、警察に携帯を取り上げられる瞬間に見た投稿が目に入ってきた。

”という映画を見たけど面白くなかったです。じゃあ次の映画のレビューは30分後に!”

ツイッター、それは今をつぶやくもの。ただし決して人の行動をつぶやいてはならない。それは、大きな勘違いを生むことになるかも知れないのだから。

What's Happening? (今、どうしてる?)

(後書き)

久々に書き下ろしを書いたので、なんか強引な展開になってしまったことを深く後悔。書こうと思ってから書き終わりまで30分くらいです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4465k/>

---

Twitter/ツイッター #1

2010年10月10日00時40分発行